プレスリリース

平成２０年４月２８日
水　　産　　庁
独立行政法人 水産総合研究センター

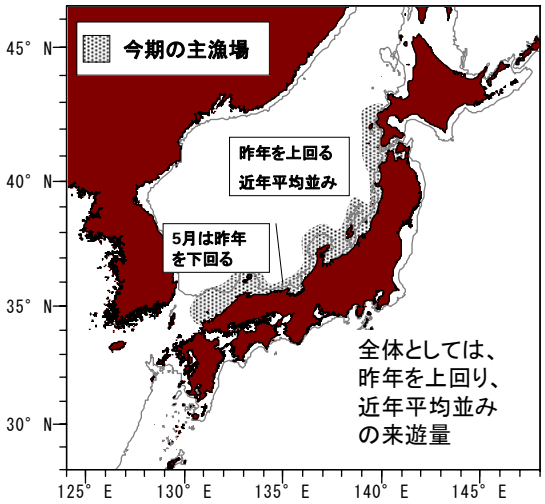
# 平成２０年度第１回日本海スルメイカ長期漁海況予報

－ 別表の水産関係機関が検討し独立行政法人水産総合研究センター
日本海区水産研究所がとりまとめた結果 －

## 今後の見通し(2008年5月～7月）のポイント

**対象魚種：スルメイカ**
**対象海域：日本海**
**対象漁業：主にいか釣り漁業**
**対象魚群：主に秋季発生系群**

**（１）来遊量：近年平均並み（昨年を上回る）。**
**ただし、5月の山陰では近年平均を下回る。**
**（２）漁期・漁場：北上が早く、漁期の経過は早い。**
**（３）魚体の大きさ：近年平均並み。山陰では大型が少ない。**




## 問い合わせ先

水産庁 増殖推進部 漁場資源課 沿岸資源班
担当：大隈、和田、染川
電話：03-3502-8111(内線6800)、直通電話：03-6744-2377、ファックス：03-3592-0759
当資料のホームページ掲載先URL
http://www.jfa.maff.go.jp/j/press/
独立行政法人水産総合研究センター　日本海区水産研究所　業務推進部
電話：025-228-0451、ファックス：025-224-0950
当資料のホームページ掲載先URL
http://abchan.job.affrc.go.jp/
http://jsnfri.fra.affrc.go.jp/

# 平成20年度第1回日本海スルメイカ長期漁況予報

## 今後の見通し（2008年5月～7月）

**対象魚種：スルメイカ**
**対象海域：日本海**
**対象漁業：主にいか釣り漁業**
**対象魚群：主に秋季発生系群**

**（１）来遊量：近年平均並み（昨年を上回る）。**
**ただし、5月の山陰では近年平均を下回る。**
**（２）漁期・漁場：北上が早く、漁期の経過は早い。**
**（３）魚体の大きさ：近年平均並み。山陰では大型が少ない。**

＊近年は最近5年間(2003年～2007年)

## Ⅰ　漁況予報

漁況の経過および資源調査結果（昨年10月～11月の日本海スルメイカ稚仔分布調査結果、および今年4月のスルメイカ新規加入量調査）を主要な情報として、今期（2008年5月～7月）の日本海におけるスルメイカの漁況を下記のとおり予測した。

【予測】

今期（2008年5月～7月）の日本海におけるスルメイカの漁況は、北陸以北では昨年を上回り、近年平均並みと予測される。ただし、5月の山陰では昨年および近年平均を下回る見込み。水温が平年よりもやや高いと見込まれることから、魚群の北上が早く、漁期の経過は早いと予想される。

【情報】

(1)今年3月～4月の山陰以西の漁況は低調であり、漁獲量が昨年および近年平均を下回った。
(2)対馬暖流域の水温は、今期間平年よりも「やや高め」に推移すると予測されている。
(3)2007年10月～11月のスルメイカ幼生の分布調査結果では、1990年代以降ではかなり低い水準にあったが、平均採集個体数が2006年を上回った。
(4)今年4月に実施した新規加入量調査結果では、今期に漁獲加入すると予想される外套背長5cm以上のスルメイカが大和堆南西沖で多く採集され、平均採集個体数が昨年を上回った。

## Ⅱ　説明

### １．漁況の経過

日本海では、3 月から予報期間の前半（5 月まで）は昨年の春～夏に生まれたスルメイカが主に山陰以西で漁獲対象となる。

今年の山陰以西の漁獲量は、１月～2 月は近年平均並みであったが、3 月は大きく減少し、昨年および近年平均を下回った（図 1)。境港では 4 月に入っても昨年を大きく下回る水準で経過した（図 2)。したがって予報期間の前半（5 月まで）は、漁況が昨年を下回ると予想される。また、昨年の春～夏に生まれたスルメイカ（大型）の来遊量が少ないことから、山陰では大型が少ない見込み。

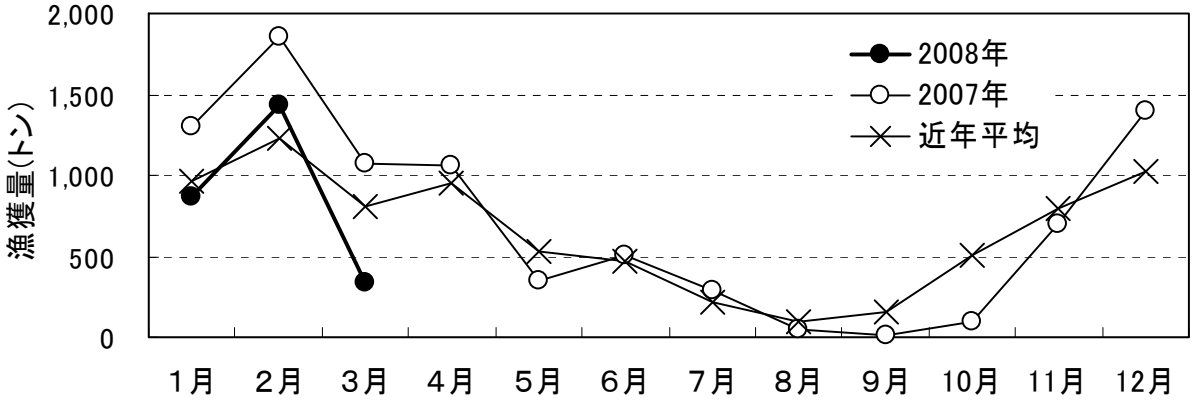



図１　山陰以西（兵庫県～長崎県）におけるスルメイカの月別漁獲量。各県試験研究機関集計資料より作成。

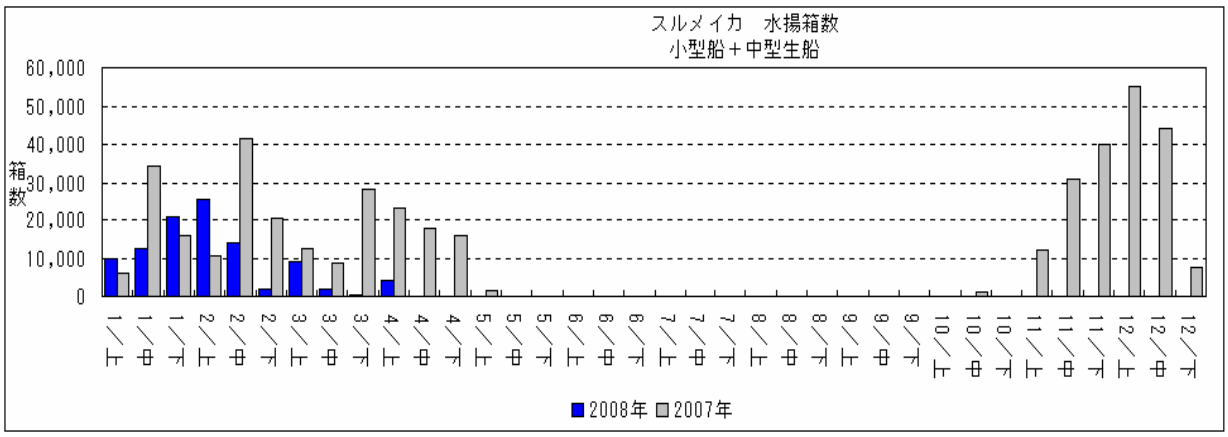



図２　鳥取県（境港）におけるスルメイカの漁獲量

鳥取県水産試験場のホームページ

http://www3.ocn.ne.jp/~tthome/sakairyoumoyou/sakairyoumoyou.htm より

### ２．海洋環境

平成 20 年度第 1 回日本海海況予報*1)によると、3 月の表面水温は概ね「平年並み」であるが、佐渡北西では平年よりも「やや高め」～「かなり高め」であった。今後（4 月～6 月）は、対馬暖流域の水温は表面および水深 50m とも平年よりも「やや高め」で経過すると予測されている。したがって、今期のスルメイカの魚群は北上が早く、各地の漁期の経過も早いことが予想される。

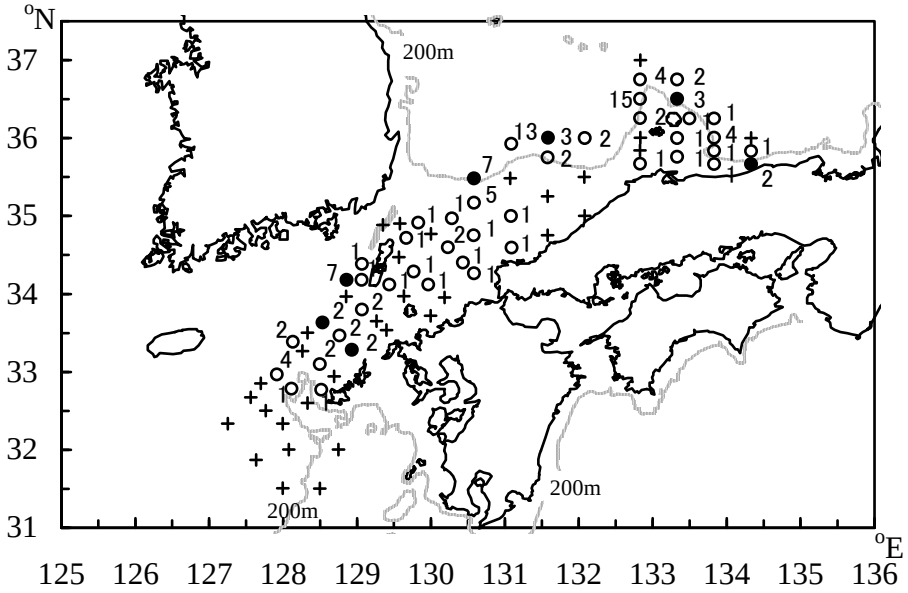
*1) http://jsnfri.fra.affrc.go.jp/kenkyu/yohou/H20yohou/yohou080409.pdf

## ３．昨年秋の幼生分布量

日本海では 5 月下旬～10 月に前年秋～冬に生まれたスルメイカが主に漁獲される。したがって、前年秋～冬のスルメイカ幼生の分布量は、日本海へのスルメイカの来遊量を予測する資料となる。

2007 年 10 月～11 月に実施したスルメイカ幼生の分布調査*2)の結果（図 3）では、1 調査点あたりの平均採集個体数は 1.56 個体であり、2006 年（1.35 個体）を上回った（116%）ものの、近年平均（2.08 個体）の 75%であり、1990 年代以降の中では低い水準であった（図 4）。

*2) 幼生の分布調査：口径 45cm のプランクトンネット（網目 0.33mm）を用いた採集調査。各調査点で水深 150m までの鉛直曳によって主に外套背長 1～3mm のスルメイカ幼生を採集する。



孵化直後のスルメイカ幼生
（外套背長約 1mm）

図 3　2007 年 10 月～11 月におけるスルメイカ幼生の分布調査結果
○幼生が採集された調査点、●孵化直後の幼生が採集された調査点、＋幼生が採集されなかった調査点、
図中の数字は各調査点における採集個体数

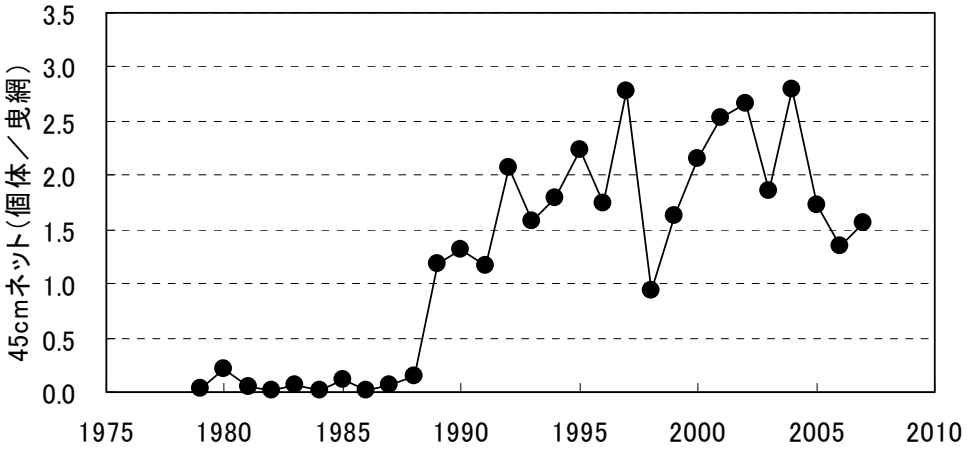



図 4　スルメイカ幼生の 1 調査点あたりの平均採集個体数の経年変化

## ４．加入前の分布量

イカ釣り漁業では外套背長 15cm 以上のスルメイカが主な漁獲対象となる。したがって、漁獲対象前のスルメイカ（主に外套背長 2cm～10cm）の分布状況を事前（4 月）に把握することで、今期の漁況を予測することが可能になる。

2008 年 4 月に実施したスルメイカの新規加入量調査*3)の結果（図 5）では、今期に漁獲対象となることが予想される外套背長 5cm 以上のスルメイカが、大和堆の南西沖で多く採集された。１調査点あたりの平均採集個体数は 35.0 個体であり、近年平均（33.0 個体）を上回ったが、昨年（54.5 個体：外套背長 5cm 未満が中心）を下回った。ただし、外套背長 5cm 以上の個体では平均 25.4 個体であり、近年平均（16.3 個体）および昨年(20.0 個体)を上回った。これらは今後、北陸以北に来遊し、漁獲対象となると予想される。

*3) 新規加入量調査：口径 10m～12m の表層トロール網を用いた採集調査。各調査点で３ノットの速度で 30 分間曳網して外套背長 2～10cm のスルメイカを採集する。

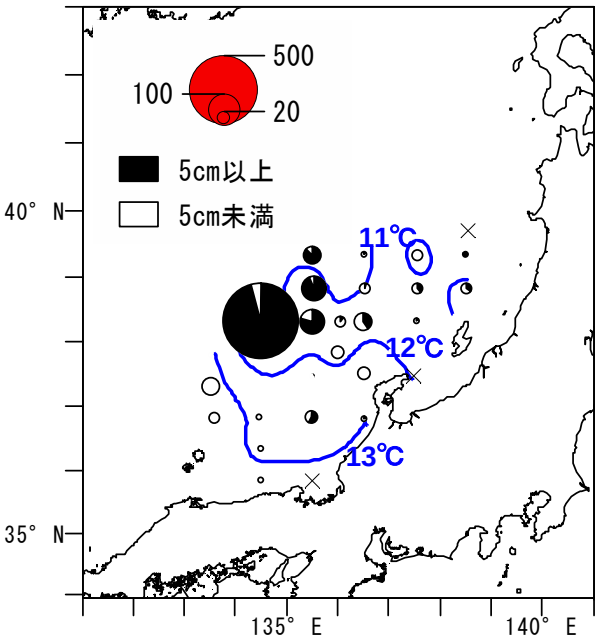



図 5 2008 年 4 月のスルメイカ新規加入量調査結果（○の面積は採集個体数，×は採集されなかった調査点）．表面水温分布を合わせて示す．

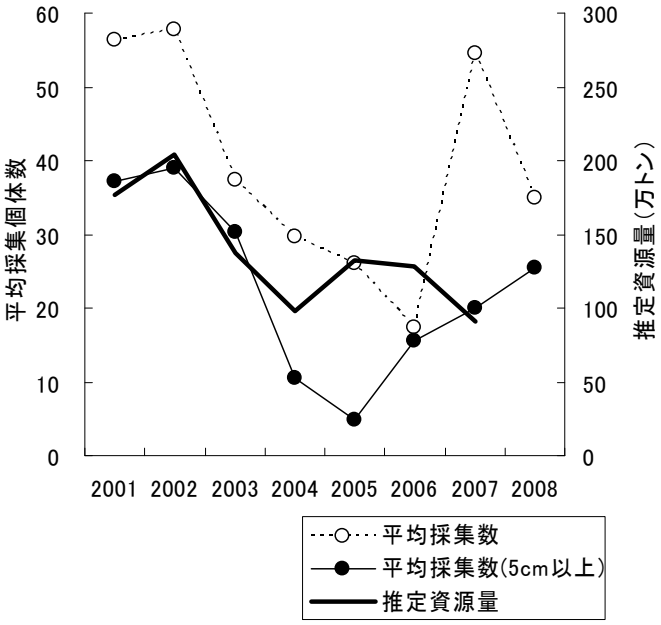



図 6 新規加入量調査における平均採集個体数と推定資源量の経年変化

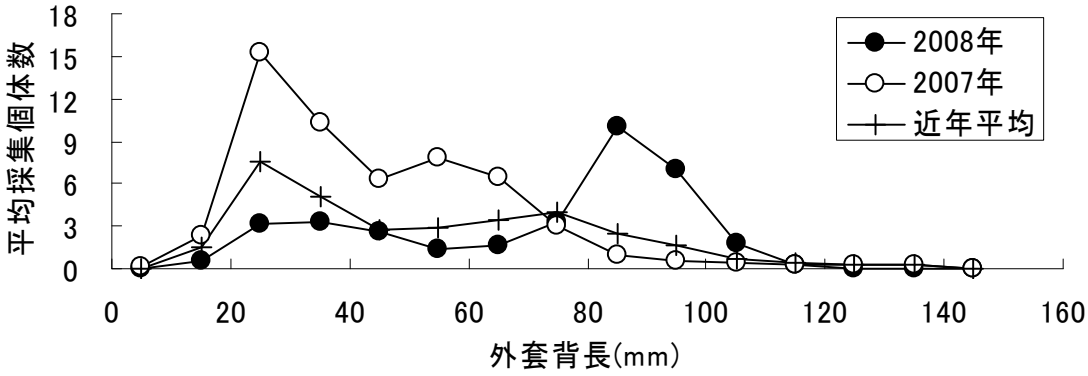



図７　新規加入量調査における外套背長階級別平均採集個体数

# 参　画　機　関

| | |
|---|---|
| 北海道立中央水産試験場 | 兵庫県但馬水産技術センター |
| 青森県水産総合研究センター | 鳥取県水産試験場 |
| 秋田県水産振興センター | 島根県水産技術センター |
| 山形県水産試験場 | 山口県水産研究センター |
| 新潟県水産海洋研究所 | 長崎県総合水産試験場 |
| 富山県農林水産総合技術センター | 社団法人 漁業情報サービスセンター |
| 石川県水産総合センター | 水産庁　増殖推進部　漁場資源課 |
| 福井県水産試験場 | 独立行政法人 水産総合研究センター<br>北海道区水産研究所<br>東北区水産研究所<br>日本海区水産研究所 |
| 京都府立海洋センター | |